日本大学薬学部校友会

桜薬会会報

No. 77

2号館2階食堂

October. 2022

目　次

目次…… 2
人物往来　古村江理…… 3
特集　高齢者における抗菌薬適正使用のポイントと高齢者に特化した施設での AST 活動　宗　村盛 …… 6
追悼　徳竹伯夫先生を悼む…… 9
生涯教育講座のご案内…… 11
研究室だより…… 12
支部連絡会報告…… 16
地区支部・職域支部だより…… 18
桜の木の下で…… 20
日本大学・校友会ニュース…… 22
薬学部ニュース…… 23
物故者名簿…… 24
会務報告…… 25
校友会ホームページのリニューアルについて…… 28
広告…… 29
会費納入報告…… 30

★　表紙・写真　撮影者：薬学部　写真部

日本大学校友会正会員募集中

皆様は日本大学薬学部校友会が、日本大学校友会の下部組織として活動していることはすでにご存じのことと思います。薬学部校友会は卒業生を正会員に、在校生を学生会員として構成しております。日本大学校友会では卒業生全員に、毎年２月頃、校友会誌「KIZUNA（絆）」を送付し、別途登録して頂いた校友を正会員（会費 10,000 円）として正会員会誌「桜縁」（年２回発行）をお届けしております。正会員会費の一部は薬学部校友会へ納入した翌年に還付されます。還付金は還付当年度の薬学部校友会年会費としております。ぜひ正会員登録をして頂きたくお願い致します。希望者は事務局までお知らせ下さい。

工学部薬学科・理工学部薬学科卒業生にお願い：

登録・会費納入に際して郵便振替用紙記入の時、「所属する支部・部会」欄に必ず「薬学部校友会」と記入して下さい。無記入ですと本会に還付されませんので、薬学部校友会会費に振り替えることが出来ません。ご注意下さい。

人 物 往 来

39 期（薬学部薬学科：1994 年卒）　古村　江理

桜薬会会員の皆様、初めまして、古村江理と申します。先日、安部恵先生から、桜薬会会報の原稿執筆のご連絡をいただきました。「薬剤師のみならず鍼灸師・美容師・・・と多方面へ挑戦したことについて、どのように考えて行動したのか、今はどのように活動しているのかをお知らせください」とのご依頼をいただきました。力不足であることは十分に承知しておりますが、この機会に感謝して、前向きに挑戦させていただくことにしました。

私は長野県長野市生まれ、千葉県野田市・柏市育ちです。現在、柏市内の薬局で調剤と薬局業務、私立幼稚園・公立小中学校の学校薬剤師をしています。自宅では鍼灸（しんきゅう）治療室を開業し、鍼灸治療の他、対面とオンラインでの健康相談（漢方薬治療、肌トラブル相談）、健康食品や化粧品の販売など、オールウェルネス漢方治療家としてヘルスケア・代替補完療法を行っています。時折、健康講座の講師の依頼もあり、地域の方々に漢方やお灸のセルフケアをお伝えする機会もいただいています。

【大学入学まで】

私の多方面への挑戦は、母の影響が大きいように思います。私が５歳の時、母は漢方専門薬局と鍼灸治療室を併設したお店を開業しました。当時、薬剤師・鍼灸師の資格を持っていても、一人で両方の資格を活かして治療をする人は少なかったと聞きます。高校生の時にお店は漢方美容サロンを増設しました。かなり珍しいスタイルの薬局と評判になり、専門雑誌やテレビで紹介されることがあり、全国から見学者が来ていました。

家族総出で母を手伝いました。子どもの時から私は母の患者でもあり、弟子でもありました。漢方薬や鍼灸の施術では、症状が驚くほど軽減されます。母に憧れる子ども心が私の原点と思います。私は体調が悪い人を見ると、「良くなるために何が出来るか」を夢中になって考えてしまいます。自分が良くなることを体験し、「自分が施術者として他の人にも良くなる体験を与えたい」と思ったことが始まりと思います。

中学生の頃から鍼灸の勉強会に参加し、経絡（けいらく）や経（けい）穴（けつ）など、鍼灸治療の勉強をしました。高校時代は保健係で、体調の悪い同級生のツボを押したり、漢方薬を持ち歩き、咳をしている生徒や生理痛の生徒に配っていました。高校２年生の時、忙しい母の代わりに美容学校の通信課程に入学しました。母は漢方美容サロンで頭皮や髪のトラブルの方の治療も計画していたのです。大学受験の時、すでに美容学校とのダブルスクールでした。

【大学時代】

サークルは軽音学部に所属してバンド活動をしていました。担当はドラムスです。当時はお友達からもらった赤いジーンズをはいて、とても目立っていたようです。生薬学研究室に籍を置いて漢方班でお世話になり、滝戸先生にご指導いただきました。実は漢方研究部を作りたかったのですが、顧問の先生がなかなか見つからず、断念しました。３年生の時には漢方班で「肥満」について漢方発表をしました。大学４年生の夏には２週間、ロサンゼルスにホームステイしました。アメリカで活躍している日本人の美容師を訪ね、パーマをしてもらいたいとお願いしたところ、日本にないものを体験しては？　カラーリングはどうかと提案され、赤毛になりました。卒業アルバムの写真も一部赤毛になっていますが、その名残です。

美容学校のほうは卒業に時間がかかりました。大学２年生の時に美容学校を卒業。知り合いの美容院でインターンをさせてもらい、大学４年生の春に資格を取得しました。この資格はその後、育毛の治療

に役立ちました。母が『漢方流で髪が生える』という本を出版し、たくさんの方がお店に来られたのです。薬学部入学が決まったと同時に家業のアルバイトが本格的になりました。長期の休みは朝から夜まで。薬局業務とお灸の助手をしていました。退職するスタッフの引継ぎはすべて私にという母の指示で、お店の仕事を一つずつ体得していきました。大学１年の夏休みにお店がテレビで紹介されたためにお客様が急増し、母と二人で夜中まで対応し、1 カ月の労働時間が 600 時間になりました。後期の授業が始まった頃に体調を崩し、大学も休みがちに。そんな時、友人たちがサポートしてくれました。授業のフォローだけではなく、薬局にアルバイトに来てくれましたし、単発のアルバイトの時は軽音楽部のお友達を中心に男の子達も積極的に参加してくれ、大きな力になってくれました。私はお友達に恵まれました。この場をお借りして感謝申し上げます。

【大学卒業後】

鍼灸師の資格を取るため、日中は調剤薬局に勤務し、副業で美容学校の非常勤講師をしながら、夜学で鍼灸学校に通いました。調剤薬局では、定期的に派遣店舗を変えて薬剤師の実務経験を増やしたいという社長の理念をかなえる第１号の平社員になりました。3 つの店舗を体験し、薬の知識や経験を増やすことができました。

その頃、美容学校が１年制から２年制へと切り替わり、講師の人数を増やさねばならず、私にも講師の依頼がありました。母校の国際理容美容専門学校の、消毒法・公衆衛生学の非常勤講師を２年間担当しました。

【漢方総合療法の実践】

そして実家の薬局に戻りました。鍼灸学校に通っていた間は経理や美容部門を担当、平成 10 年に鍼灸師の資格を取得してからは鍼灸治療を中心に現場で学びました。最初の５年くらいは徹底的に身体で覚えるよう、手取り足取り指導を受けました。そしてようやく漢方薬の古典の勉強開始の許可をもらい、学び始めます。母は臨床漢方塾、臨床鍼灸塾を開講し、製薬会社の学術顧問もしていました。それらが通信教育も並行の形になったため、私はその教材の制作を担当し、アシスタントとして会場に入り、漢方と鍼灸を学んでいきました。

お店では漢方専門薬局・鍼灸治療室・漢方美容エステサロンの３つの施設を予約時間に応じて行き来し、それらを融合した施術を実践するようになりました。漢方薬や生薬・食品などで内治（内側からの治療）を、鍼灸や化粧品などで外治（外側からの治療）を、そしてご自宅でご本人が取り組む「衣食住」の養生法やセルフケアを通じて一日も早く改善し、改善した後も養生を続けてもらい、再発予防に繋げることを実践しました。母はこれを「漢方総合療法」と称して教材を作り、一般の方、鍼灸師、薬剤師への普及に努めていました。

その後、母が病気で倒れ、私が店頭で漢方相談を受けなければならない立場になりました。店頭だけではなく鍼灸治療室で漢方相談･美容相談を受け、施術をしながら服薬指導をするスタイルを作りました。患者さんの多くは西洋医学の治療や投薬を受けています。それを邪魔せず副作用を軽減させながら自然治癒力を発揮し回復へ導く事を意図し、西洋医学との「統合療法」を意識しながら漢方相談をしてきました。

【ホリスティック医学との出会い】

母が亡くなり、独立しました。そのとき、「自分（の魂）が望む生き方とはどのような生き方か」を探究する機会を持ちました。そこで出てきたのが私の原点、「良くなるために何が出来るか」でした。そして、東洋医学の考え方やホリスティック医学との出会いが私を導いてくれたのです。

漢方･鍼灸や中医学も含む東洋医学では、「自然治癒力が最も発揮される状態は健康も人生も好転させる」と考えます。中医学の大家に師事する叔母について、中医学を学び始めました。そして伝統医療である日本漢方を、漢方認定医指導医の先生に師事し、医療に関わる漢方を西洋医学と共に学ぶ機会を得ました。

その漢方医の先生を通じてホリスティック医学と出会いました。多方面で活躍するナースの方々ともご縁が繋がり、レイキや、音（音叉・シンギングリン等）と香り（アロマや香油）を使う療法を勧められ、学びました。その他、脳と心と体を活性化し、自らに目覚め、自他実現へ導く方法を、様々な先生方から学びました。

もともと漢方はマクロの医学・全人的医療ですが、母が始め、私が受け継いだ漢方総合療法は、患者さんに、病への気づきから自分自身の人生を振り返り、自己実現を視野に入れていただく考えで治療します。患者さんの自然治癒力を重視し、治療者は援助者という立場で、西洋医学以外の様々な治療法を統合するホリスティック医学とあらためて出会い、漢方総合療法をさらに強化する様々な方法を学び、施術に組み込んできました。

【これからの活動】

WHO は健康を「心身が病気ではないだけではなく、全てにおいて（社会的・人間関係・経済的）より良く生きること（Well-being）」と定義しています。漢方薬や鍼灸を中心に、ヘルスケア・代替補完療法を行うにあたり、私は「オールウェルネス漢方治療家」を名乗っています。お一人お一人に自分らしい幸せな人生を創造していただくための健康のサポート役を意識し、「全てにおいてウェルネスである」あり方を目指す治療家という意味です。病気の時だけではなく、元気になってからも、健康面から患者さんの幸せな人生を応援する存在でありたいと思っています。そのために多くの先生方にご教示をいただき、仲間の専門家と連携しています。

先般、NHK カルチャーセンターからセルフケアお灸教室の講師の依頼を受けました。他にも健康セミナーで漢方養生を普及させ、未病の段階での予防を目指す市民活動や、西洋医学も含めた各種専門家と連携して、より良い医療環境を患者さんに提供できるような地域活動を目指しています。

かなり風変わりなスタイルだと思いますが、私の生い立ちと活動を振り返ることができ、お世話になった方々に感謝し、皆様に知っていただく機会をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

薬学部校友会（桜薬会）ホームページでの求人情報募集

会員からの求人情報の掲載は無料です。求人申込書はホームページの「求人・求職」のページからダウンロードし、必要事項をご記入の上、事務局に郵送（あるいはＦＡＸ）してください。なお、「求人・求職」のページを閲覧（ログイン）するには、会員番号ＩＤが必要です。会員番号ＩＤは封筒宛名下にある会員番号の下６桁です。

ホームページアドレス；http://www.ouyakukai.jp/

メールアドレス；pha.alumni@nihon-u.ac.jp

特集 高齢者における抗菌薬適正使用のポイントと高齢者に特化した施設での AST 活動

順天堂大学医学部付属順天堂東京江東高齢者医療センター
薬剤科主任　宗　村盛

はじめに

高齢者の感染症治療は、生理機能の低下や栄養状態の低下によって注意が必要です。そこで治療上のいくつかのポイントと当センターでの AST（Antimicrobial Stewardship Team：抗菌薬適正使用支援チーム）活動の現状について紹介します。

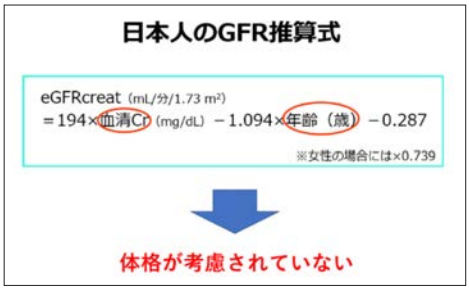
（高齢者の薬物代謝の特徴）

薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）は加齢の影響を大きく受けます。高齢者では、胃・腸管血流量が約 50％減少し、消化管での吸収が低下、脂肪組織が約 20％増大する一方、細胞内水分が約 10％減少することで薬剤の組織への移行・分布が低下します。また、肝血流量が約 40％減少し、代謝が低下し、腎血流量も約 50％減少し、尿への排泄能も低下します。つまり、高齢になると薬剤の生体内蓄積が起こりやすくなります。特に腎臓の影響は顕著です。そこで今回は特に腎機能評価と投与量について説明します。

（腎機能の評価）

本邦での慢性腎臓病の定義は①，②のいずれか，または両方が 3 カ月以上持続することと定義されています。

① 尿異常，画像診断，血液，病理で腎障害の存在が明らか，特に 0.15 g/gCr 以上の蛋白尿（30mg/gCr 以上のアルブミン尿）　② GFR ＜ 60 mL/ 分 /1.73 m^2



ここで重要なのは、この評価はあくまで患者が腎臓病であるか否かを評価するものであって、薬の投与量を決める指標ではないことです。日本人の推算糸球体濾過量（以下 e-GFR）の推算式は左記になっており、これからわかるように年齢と血清クレアチニン値のみで体格が考慮されていません。この式は腎機能評価の診断に用いられるものです。

詳しく下図で説明すると左は力士で非常に体が大きいです。それに対して右は小人で体が大変小さく、同じ年齢ですが体格が異なります。まず、仮定として血清クレアチニン値をどちらも 0.7mg/dl としてみます。そうすると体格を考慮していない e-GFR はどちらも同じ 108ml/min になり、腎機能の評価としては正常です。しかしながら体格を考慮すると赤丸のようになり、力士は約 3 倍 e-GFR が大きくなります。もし仮に、体格を考慮していない e-GFR で薬剤をどちらにも同じ量の薬を投与した時、力士は血中濃度が低くなり、小人は高くなって、適正量でなくなってしまいます。そのため通常体格を考慮した腎機能評価で薬の投与量を決めることが大切です。

つまり先ほど示した e-GFR の式に赤字の部分をかけると未補正の体表面積の腎機能評価になり、薬

の投与量に用いることができる腎機能評価になります（上図右）。

その他によく使用されるクレアチニンクリアランス（以下 CCr）の推算式としてコッククロフトの式があります。

Cockcroft-Gault 式（以下 CG 式）

男性＝（140 －年齢）×体重／ 72 ×血清クレアチニン値　女性 =CCr（男性）× 0.85

理想体重（男性）= 50+ {2.3×（身長－152.4）} /2.54　理想体重（女性）= 45.5 + {2.3×（身長－152.4）} /2.54

この式では年齢、血清クレアチニン値だけでなく体重が考慮されているので、薬の投与量を設定するのに適していますが、肥満患者の場合には過大評価することがあるので必ず標準体重を用います。

（実際の薬物投与量の設定と高齢者への注意点）

そうしますと薬の投与量を決めるためにはどちらの式を使ったらいいのかということになるのですが、CCr は e-GFR に比べて高値になると言われています。理由として、クレアチニンが尿細管で分泌されるため、e-GFR より 1.2 ～ 1.3 倍高くなる欠点があります。そのため CCr は e-GFR より高値になるので 0.789 倍し e-GFR として評価します。しかしながら高齢になるとその傾向は逆転し、CCr が低く、e-GFR が高値になる傾向になります。そのため通常は e-GFR を使うのが推奨されてますが、高齢者のフレイル症例には CCr が適しているといわれています。当センターでは高齢者が多いので CCr を使うことが多いです。また CCr を使う場合は肥満の場合は過大評価することがあるので必ず理想体重を用います。また高齢者ではシスタチン C による e-GFR を算出したほうがより正確です。

シスタチン C は細胞より分泌される内在性のシステインプロテアーゼインヒビターで、炎症などの細胞外の影響を受けにくく、全身の細胞から一定速度で産生されるタンパク質で広く生体内に存在してます。シスタチン C は糸球体で濾過されますが、ほとんどが近位尿細管で再吸収され、アミノ酸に分解されるため、尿細管から血液中への移行はありません。そのため血中濃度は GFR に依存し、血清クレアチニン値と比較して、食事や筋肉量、性差、運動、年齢差の影響を受けず、軽度の腎機能の低下に反応して血清シスタチン C の濃度が上昇します。血清クレアチニン値 は GFR が 30 ～ 40 mL/min 前後まで低下しないと上昇しないのに対し、GFR で 60 ～ 70 mL/min の早期の腎障害を検出できることがシスタチン C の特徴であり、ハイリスク薬などの投与設計には向いていると考えます。

また添付文書の記載を見るときは添付文書の CCr は e-GFR と解釈してかまいません。理由としてほとんどの薬剤が海外で臨床試験が行われ、設定されているからです。血清クレアチニン値の測定方法には海外で主に用いられる Jaffe 法と日本で主に用いられる酵素法があります。Jaffe 法は酵素法より 0.2 高値になります。そのため日本の酵素法の CCr が高く見積もられるからです。Jaffe 法の正常値は 100ml/min でありますが、日本の酵素法では 120-130ml/min と高く出ます。ただし、日本で臨床試験を行い、設定されている場合は CG 式で計算する必要があります。

また CG 式を使用する場合でも、血清クレアチニン値が 0.6 以下である高齢者やフレイル症例では筋肉量が少ないため、見かけ上過大評価してしまう可能性があるので推算式に血清クレアチニン値が 0.6 以下の場合でも 0.6 を入れて計算すると予測精度が高くなることが報告されています。

その他の注意点としてそのため抗菌薬・抗がん薬などで推奨投与量が mg/kg（アミノグリコシド系抗菌薬のように薬物により理想体重を入力すべきものもあります）や mg/m^2 で規定されている薬物用量の場合に、たとえば体重が小さい症例で e-GFR（mL/min）や CCr（mL/min）のような未補正の式を用いると体表面積と腎機能の両方で減量してしまうことになります。そのため投与量が mg/kg や mg/m^2 で表されている場合には例外的に血清クレアチニン値によって求められた e-GFR（mL/min/$1.73m^2$）または CCr（mL/min/$1.73m^2$）を用います。

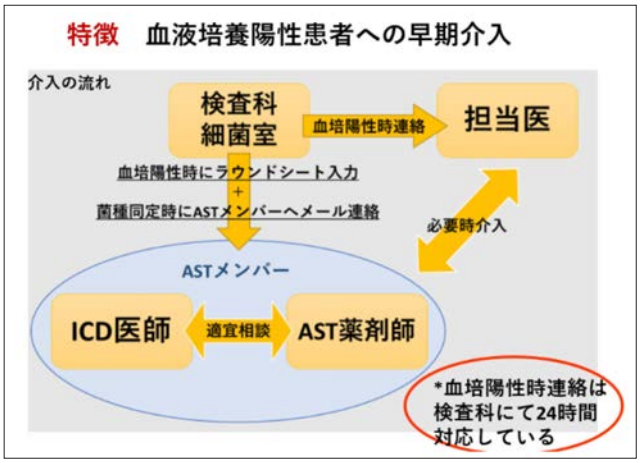
（高齢者に特化した病院での AST 活動）

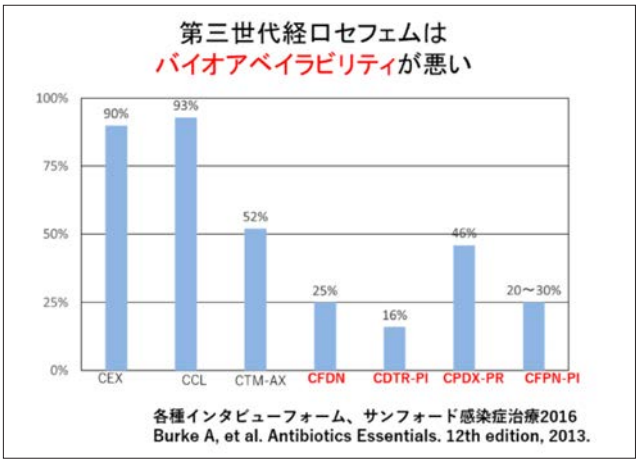
AST は具体的には院内の耐性菌の出現を抑えるため、抗菌薬の適正使用を支援します。チーム構成は医師、薬剤師、検査技師、看護師から構成され、それぞれ職能を生かして適正使用に努めています。

具体的な活動として①血液培養陽性患者の支援②広域抗菌薬の適正使用についてモニタリング③

AUD（Antimicrobial Use Density）＝抗菌薬使用密度を適正使用かどうか時系列でモンタリングし、またそれとアンチバイオグラム（施設の一定期間において分離された微生物の各種抗菌薬への感性率）と比較することで使用量の増加によって耐性菌を誘導しているか監視しています。

また当センターの特徴としては血液培養陽性で菌名、感受性同定時に主治医はもちろん、AST メンバーにもリアルタイムで連絡がいくことです。それにより迅速な支援を主治医にすることができます。





抗菌薬の採用にも関与しており、経口抗菌薬は消化管からの吸収が悪く（上図右）、逆に耐性菌を増やす傾向にあるため、第 3 世代経口抗菌薬の一部を採用中止にするなど未然に防ぐ活動もしています。

ここまでは一般的な AST の活動ですが高齢者患者の多い当施設の特徴としてフレイル（加齢とともに心身の活力（運動能力や認知機能等）が低下し、複数の慢性疾患の併存などの影響もあり、生活機能が障害され、心身の脆弱性が出現した状態）の患者が多く、適切な感染症の治療をしても改善しない患者が多いことです。そのため患者の栄養状態から見直し、栄養が十分でない場合は NST（栄養サポートチーム）と相談し、改善に努めます。また高齢者には食事が十分にとれない患者も多く、そのような患者にはその原因を主治医と相談します。しかし理由がわかればいいのですが、理由がわからない患者も多く、そのような患者には亜鉛欠乏症を呈していることが多いです。　亜鉛が低下すると感染症の治癒遅延や食欲低下の原因にもなります。そのため積極的に血清亜鉛値の測定を提案しています。

おわりに

高齢者は生理機能や身体機能が低下しているため、通常の成人と薬の投与量も異なることが多く、また栄養状態の不良から正しい治療を行っても改善しないケースが多々あります。そのため多角的な視点から薬剤師として治療に貢献できる一つのきっかけになれば幸いです。

略　歴

学歴

1995 年 3 月～　日本大学薬学部薬学科卒業

職歴

1995 年 4 月～　日本大学駿河台病院薬剤部研修生

1996 年 4 月～　順天堂大学医学部付属順天堂医院薬剤部入局

2008 年 5 月～　順天堂大学医学部付属順天堂東京江東高齢者医療センターへ異動

2021 年 4 月～　順天堂大学医学部付属順天堂東京江東高齢者医療センター薬剤科　主任

所属学会

日本病院薬剤師会、東京都病院薬剤師会、日本医療薬学会、化学療法学会、日本腎臓病薬物療法学会

資格

医療薬学専門薬剤師　抗菌化学療法認定薬剤師　腎臓病薬物療法認定薬剤師

追悼　徳竹伯夫先生を悼む

徳竹先輩の長逝を悼む

４期（工学部薬学科：1959 年卒）　山内　　盛

徳竹先輩と初めて会ったのは、私が世田谷教養部から工学部薬学科に移行した２年生の昭和 31 年春でした。先輩は生薬研究会新歓行事の薬用植物採集会で大船から北鎌倉へ尾根道を歩きながらお喋りした１年上の上級生でした。それから２年間、先輩が卒業されるまで、「徳さん」と呼びながら、研究会行事を通してお近づきを頂きました。また、その間、多くの先輩をご紹介頂き、すでに卒業した１，２回生や徳さんの同期生の多くの先輩にお近づき頂けたのは徳さんのお引き立てがあったと感謝して居ります。

徳さんは恩師木村雄四郎先生自慢の卒論生でした。卒業と同時に東京大学大学院に進学されましたが、当時は国立大にしか大学院がなく、そこに進学されたので、木村先生からは「徳竹を見習え」とハッパを掛けられ、閉口した思い出もあります。大学院を修了されると、塩野義製薬（株）研究所に就職され、関西に居を移されたので、疎遠になりましたが、昭和 54 年薬学科の有機薬品製造学教室に戻られたので、お付き合いが再開しました。

徳さんは塩野義時代に私達後輩が良く知る卒論同期のご婦人と結婚されていましたので、ご自宅に何回も夫婦でお伺いしていました。新米のお土産を頂いた、愉しい思い出もあります。

昨年の賀状では「どういうわけか Aastrobiology、Cosmology などに興味をもって勉強（？）、気まぐれ」と自筆で書かれていたので、いい年をして、とんでもない世界に足を踏み入れるのかと驚いて居ました。

今回の訃報と共に知ったことですが、夫人が昨年、一足先に身罷れたことを知りましたが、未知の世界への方向転換は先のことを予期してのことだったのかとあらぬ推察をしています。徳さんのことですから、勉強に集中するあまり、奥様を追っかけて宇宙行きロケットに乗ったのですか。もう少し、この世で勉強を続けて欲しかったと思っています。

長期に亘り、ご交誼頂き、感謝して居ります。有り難う御座います。

徳さん、ご夫妻揃って、宇宙で元気で居て下さい。　合掌

徳竹伯夫先生との思い出と感謝

30 期（理工学部薬学科：1985 年卒）　鳥山　正晴

徳竹先生が薬学科に戻られた３年後の昭和 57（1982）年、２年生となり、駿河台校舎に移行しました。当時、先生は無機薬品製造学の講義を担当されており、その授業に感銘を受けました。科目名にとらわれないその講義内容は、無機化学から有機合成化学に至るまで、非常に興味深く、先生の幅広い知識と高い教養を感じ取ることが出来ました。その後、卒業研究は、薬品製造学教室に配属となり、徳竹先生に直接ご指導を頂くことになりました。先生には、文献の調査方法や読み方から合成化学の基礎に至るまで幅広く教えて頂き、特に SciFinder が無い時代に、Chemical Abstracts から目的の文献に辿り着くまで、長い時間をかけて、丁寧に検索方法を教えて頂いたことは、今でも鮮明に覚えております。先生は卒研生等の相談事等にも本当に親身になってご対応下さり、支え、励まされた方、更には、就職等で大変お世話になった方々も多いと思います。

平成元年、創設間もない薬学部において、先生は一般教育化学研究室（現薬品分子化学研究室）を主宰されており、当時理工学部に勤務していた私に「薬学部に来ないか」とお誘い下さいました。採用頂いた平成２年当時の化学研究室は、徳竹教授、香取専任講師、本橋助手、鳥山副手という教員構成でした。その後、平成 13（2001）年にご定年を迎えるまでの 11 年間、教育・研究や学生指導に関するご教示はもとより、学位取得、海外留学等、人生の節目においても、多大なるお力添えを賜り、師としてこの上なく尊敬しております。

ご定年後は、先生からご要望のあった文献をお送りしたり、ご自宅にお伺いして、貴重な有機化学の専門書を戴いたりとご厚誼を賜りました。数年前にお伺いした際は、奥様と共に、穏やかな日々をお過ごしのご様子でしたので、突然の訃報に大変驚いた次第です。徳竹先生のこれまでの様々なご功労に敬意を表しますと共に、長年にわたりご厚情とご指導・ご教示を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。有難うございました。

薬学部校友会（桜薬会）ホームページの ID

日本大学薬学部校友会ホームページの「校友会会則」・「求人・求職のコーナー」・「運営委員会資料」を見るには ID とパスワードが必要です。

ID は宛名の下にある正会員番号の下６桁（半角）、パスワードは氏名（全角カタカナ）になります。ID・パスワードは毎年 10 月の末に一括更新しております。毎年３月に卒業された方は、10 月までは学生時の ID・正会員の ID どちらでも見られますが、それ以降は正会員の ID をお使いください。氏名の変更をお届けいただいた方は、10 月までは旧氏名となります。

生涯教育講座のご案内（令和４年度）

令和４年度の生涯教育講座の日程をご案内します。最新の開催情報はホームページに掲載します。開催内容等変更になる場合がございますので、ホームページにて必ず御確認ください。
http://www.pha.nihon-u.ac.jp/longlife-learning.html/　（この頁の右下の QR コードをご利用ください）

【申し込み方法について】
昨年度より、講座を web にて開催を行うことから HP よりネット予約となりました。
受講料はご予約時にクレジットカード決済させていただきます。

【最近のトピック】

年４回開催（平日）１回１単位、受講料 1,000 円
開催方法：オンライン研修（Zoom 配信）

令和４年 11 月９日（水） 19 時 30 分～ 21 時 00 分	第 191 回	演題：感染制御・感染症診療における薬剤師の役割 東京大学医学部附属病院　薬剤部 山口　諒 先生
令和５年２月 22 日（水） 19 時 30 分～ 21 時 00 分	第 192 回	演題：未定 日本大学薬学部　病院薬学研究室 教授　福岡 憲泰 先生

【ファーマシューティカルケアの最前線】

年４回開催（日曜）　１回２単位、受講料 2,000 円
開催方法：オンライン研修（Zoom 配信）
時　　間：13 時 00 分～ 16 時 10 分

令和４年 11 月 27 日（日） 13 時 00 分～ 16 時 10 分	①感染症対策における標準予防策の実践 日本大学薬学部　薬剤師教育センター　教授　西　圭史 先生 ②市中肺炎および院内肺炎の診断と治療 日本大学薬学部　薬剤師教育センター　教授　辻　泰弘 先生
令和５年２月 26 日（日） 13 時 00 分～ 16 時 10 分	（疾患別テーマ）未定

【薬剤師実践セミナー】

１回３単位、受講料 5,000 円　スキルを身に付ける参加型セミナーです。
日程　令和４年 10 月 23 日（日）
場所　日本大学桜門会館
開催方法：対面にて実施予定　※ただし感染状況により中止または延期する場合があります。
時間　：10 時 00 分～ 17 時 00 分（予定）
テーマ：患者の心に寄り添う薬剤師になろう！～認知行動療法的アプローチによる服薬支援～
講師　：日本大学薬学部　教授　渡邉 文之 先生
認知行動療法的アプローチによる服薬支援研究会　前田 初代 先生
認知行動療法的アプローチによる服薬支援研究会／株式会社カメガヤ（フィットケアデポ）
田沼 和紀先生

【QR コード】

問い合わせ先：日本大学薬学部薬剤師教育センター
TEL:047-465-3895
FAX:047-465-8254

研 究 室 だ よ り

機能形態学研究室（3 号館 1 階３１５）

桜薬会会員の皆様におかれましては、各方面で御活躍のこととお慶び申し上げます。機能形態学研究室の近況をお知らせ致します。現在、研究室は木澤靖夫教授、西本裕樹専任講師、助教の私（木村）の教員 3 名で教育・研究活動に取り組んでおります。卒業研究生は、6 年生 12 名、5 年生 14 名に加え、新たに 4 年生 13 名が配属され、総勢 42 名の大所帯となりました。

6 年生においては、6 月に開催された卒業研究発表会で、研究成果について 2 年ぶりにリモートではなく大学にてポスター発表を行いました。そして、この発表会での活発な討論を反映させた卒業論文も無事提出されました。また、本稿がお手元に届く頃には、２回目の総合講義試験も終了しており、全員更なる自己研鑽に励んでおります。5 年生は、新型コロナウイルス感染症が蔓延して油断ならないご時世の中、各施設のご協力の元で実務実習に取り組んでおります。4 年生は、OSCE 及び CBT に向けて準備しております。

この研究室だよりでは、卒研旅行や親睦会の写真を掲載し、皆様に現在の研究室メンバーをお披露目するのが恒例でしたが、新型コロナウイルス感染症の終息する気配がみられず、メンバー全員が集まるようなイベントは開催できておりません。その中で、6 年生の卒業アルバム撮影時の集合写真を載せさせていただきました。また、前回、当研究室の研究室だより掲載時では、数年ぶりに開催した同窓会についてご報告差し上げました。昨今の情勢では開催は難しいですが、また卒業生の皆様とお会いできることを切に願っております。

最後になりましたが、会員の皆様の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。

（木村　元気　記）

病原微生物学研究室（３号館１階３１１）

桜薬会会委員の皆様におかれましては、ますますお元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

当研究室の近況についてご報告させていただきます。

現在、廣瀬先生、板垣先生、私、小林の３人の教員スタッフに加えて、大学院３年の萩生田君、6年生12名、5年生14名と、また、この7月に配属が決まりました4年生12名が在籍しております。6年生の立河君は本学大学院に合格し、来年から念願のフィールドワークに励む予定です。

3月に卒業生10名を送り出しました。6年生は辛くも、卒研旅行に行くことは出来たのですが、懇親会は一切行うことが出来ず、実務実習、卒業研究も例年とは異なり大変な大学生活後半でした。　彼らの頑張りで、国家試験に高い合格率で合格し、それぞれ病院、薬局、保健所、治験業務に従事しております。　校友の皆様にはもし見かけましたらお声をかけていただければ幸いです。

また、大学院を無事修了した渡部浩平君は、4月より環境衛生学研究室の助教に採用され、研究、教育に励んでおります。

今年になって、対面授業が再開し、卒業研究発表会もポスターでの対面で行われ、以前に戻りつつあります。ただ、懇親会、卒研旅行はまだまだです。普段マスクをした状態ですので、学生さんたちの素顔がまだ認識できないのが残念なところです。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康と益々のご活躍をお祈りいたします。

いつか、再び同窓会にて、お会いできる日を楽しみにしております。

（小林　弘子　記）

地域医療薬学研究室（５号館３階５３５）

桜薬会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。地域医療薬学研究室の近況についてお知らせいたします。

現在、本研究室では、渡邉文之教授、泉澤専任講師、中島の３名のスタッフで、教育・研究活動に取り組んでおります。研究は、大学院生、卒業研究生ともに青少年から高齢者の医薬品問題の実態や薬剤師による服薬支援の介入など薬剤師の実務に関する研究を中心として多彩なテーマに取り組んでおります。6年生は、5年次の実務実習を無事に終え、今年の前期は主に卒業研究に励み、６月に行われた卒業研究発表会では無事にポスター発表を終えました。また5年生は現在、実務実習期間ですが、実務実習期間以外では研究を行っております。

新型コロナ感染症の感染拡大を踏まえ、この数年はオンライン会議ツールを用いた卒業研究活動が余儀なくされていた時期もありますが、本年度からは卒業研究も対面に戻り、研究室らしい風景が戻ってまいりました。引き続き、感染防止対策に励みながら教育研究活動を実施していく所存です。

これからも社会の現場で活躍されておられる皆様からのご意見を賜り、私どもも研鑽し現場へフィードバックし実践してまいりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、会員の皆様方の今後の益々のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

（中島　理恵　記）

医薬品評価科学研究室（５号館２階５２５）

桜薬会会員の皆様におかれましては、各方面でご活躍のこととお慶び申し上げます。

医薬品評価科学研究室の近況をお知らせ致します。令和４年４月現在、日髙慎二教授、専任講師の荒川基記の２名の教員と、社会人大学院生３名、卒業研究生６年生８名、５年生９名、４年生８名、客員研究員１名が所属して頑張っております。３月に卒業しました卒業研究生は、大学病院薬剤部に１名、病院薬剤部に１名、調剤薬局に１名、製薬企業研究職に１名、医薬品開発業務受託機関（CRO）の医薬品開発モニターに４名が、それぞれ希望した道で頑張っていることと思います。

卒業研究は、症候性静脈血栓塞栓症や過活動膀胱に対する医薬品の適正使用、高血圧治療薬の使用実態やガイドラインが示す降圧目標に対する到達度に関する調査、減塩評価に関するデバイス評価など多岐にわたっており、個々のテーマに沿って日々頑張っております。６年生は研究成果を卒業研究論文として立派にまとめてくれました。卒業研究発表会では用意周到に準備したことで、緊張や不安のなかでも堂々と受け答えしており、成長の一端を感じました。

新型コロナウィルスの感染拡大により度重なる緊急事態宣言が発令される中で、卒業研究期間のほとんどを在宅で行うことになった学生もおりましたが、コロナ禍に入り急速に発展したビデオ会議システムやクラウドサービスを駆使して、途切れることなく研究活動を続けることが出来ました。

先輩 OB・OG の皆様におかれましては、コロナ禍の不安定な状況の中でも、学生が実務実習生として病院・薬局へと伺っていると思いますが、引き続きご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

最後になりましたが、会員の皆様の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。

（荒川　基記　記）

薬学教育研究センター（３号館１階３１４）

校友会の皆さまにおかれましては、益々ご活躍のことと存じます。2022年8月現在、私ども教員3名（小山、竹安、元吉）と卒業研究生（6年生7名、5年生6名、4年生5名）は各々の教育、研究活動に日々励んでおります。

本研究センターは薬学教育の質向上を図るために2014年度に設置され、今年で9年目になります。2021年度より林宏行センター長、2022年度より岸川幸生センター次長を迎え、様々な教育課題に向き合い、学生と教職員等と共に教育及び学習環境の向上に取り組んでおります。

本学で5年間教鞭を執られた本研究センター畑春実准教授が本年2月に帝京平成大学薬学部に教授としてご栄転されました。また、本年4月より新たに竹安智広助教が着任されました。竹安先生は本学の薬品分子化学研究室のご出身です。

新型コロナウイルスの影響により、研究室の行事等が中止となり集合写真があまり撮れませんでした。そのため写真は今年の3月に卒業した学生（左）と現在の6年生（右）のものを掲載しました。

6年生は卒業研究発表を無事に終え、卒業論文の仕上げと総合講義試験の勉強に取り組んでおります。5年生は夏休み期間中も実務実習と卒業研究に励んでおります。実習を終えると5年生は実務実習発表会や卒業研究の再開が待っています。4年生は研究室の配属が決まり7月29日に初めての顔合わせ会を行いました。コロナ禍で親睦を深める機会がほとんどないことから、感染が収束し以前のように研究室でお茶とお菓子をいただきながら議論やおしゃべりができる日が戻ってくることを祈っております。

最後になりましたが、校友会会員皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

（小山　由美　記）

支部連絡会報告

令和４年６月26日の校友会総会に先立ち、正午から薬学部831教室で支部連絡会が開催されました。支部連絡会は平成30年度から開催され、翌年の令和元年に第２回が開催されましたが、その後、新型コロナウイルス感染拡大の影響で令和２年度と３年度は中止され、今年度が３回目の開催となりました。

出席者は以下の通りです。（敬称略）
〈支部会員〉：藤原良雄（千葉県支部長　16期）、平岡芳子（茨城県支部長　21期）、遠藤尚登（山形県支部長　25期）、赤瀬朋秀（桜神会会長　34期）、小松﨑康文（東京支部長　41期）
〈運営委員〉：内倉和雄（会長　14期）、渡邊和子（副会長兼総務委員会委員長　9期）、菅野圭介（総務委員会副委員長　22期）、小松裕明（財務委員会副委員長　25期）、日鳥幸一（財務委員会副委員長　25期）、小林弘子（副会長兼学内委員会委員長　28期）、日髙慎二（副会長兼事業委員会委員長　29期）、大竹富治（事業委員会副委員長　31期）、内山武人（副会長兼事務局委員長　33期）、岸川幸生（総務委員会副委員長　35期）、安部　恵（事業委員会副委員長　39期）、大場延浩（学内委員会副委員長　41期）、三浦基文（事務局副委員長　44期）、齋藤弘明（事務局副委員長　46期）、中島理恵（学内委員会副委員長　49期）、野伏康仁（学内委員会副委員長　49期）、矢作忠弘（IT委員会委員長　52期）、小川尚武（監事　10期）、阪田泰子（監事　31期）、澤田康裕（監事　33期）

まず、内倉会長からの挨拶があり、日本大学の現状と本部校友会についての報告がありました。

その後、各支部から以下のような現状報告がありました。

- 山形県支部：コロナ禍が落ち着き、県内で本部校友会山形県支部総会なども開催されている。
- 茨城県支部：コロナ禍の前に新卒を交えての懇親会を計画し、名簿に掲載されている16名に通知し１名から回答があった。その後、コロナ禍のため活動を休止した。
- 千葉県支部：本日千葉県支部校友会総会を開催した。隔年で総会を行なうこととした。会合は生涯研修などのイベントと重複し、校友の集まりが悪い。役員の若返りを図っている。
- 東京支部：基本的に年１回の研修会を行なっているが、コロナ禍のため令和元年11月以降開催していない。本年度はZOOMなどを利用する方法も考えている。総会は書面をもって行なった。
- 桜神会：現在約200名の登録がある。２回研修会を開催した。そのうち20～30名がオンラインでの参加であった。会の終了時は卒業生が一つとなることを目的として日大節で締めている。研修会においては学部間（主に医学部や歯学部）との交流も図っている。

続いて、令和４年度　業界研究セミナー講演者の推薦について以下の協議がありました。

- 薬学部就職指導担当　大場教授より、学部１～５年生を対象としたセミナーにおける講演者の推薦について校友会に協力依頼があった。
- 本年度は、９月13日（企業関係）、10月25日（病院関係）、12月６日（公務員関係）が予定されている。
- 提案内容のうち、謝礼については手土産だけではなく、社会通念上の謝礼を用意すべきとの意見が提出された。
- セミナー形式ではなく、懇談会形式の開催方法も提案された。
- 現在本学を取り巻く逆風の中、団結して実施すべきとの意見が提出された。
- 各支部から７月末までに２名ずつ推薦し、氏名、卒業年次、所属（勤務先）、講義タイトル、連絡方法を校友会事務局まで連絡することとなった。

支部連絡会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中断を余儀なくされましたが、今年度は校友会の活動について具体的な案が多く挙がりました。8月現在、感染拡大第7波の動向が懸念されています。このような中においても、さらなる校友会の活動活性化に関して、校友の皆様のアイディアを頂けると幸甚です。

（岸川幸生　総務委員会副委員長　35期）

日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金制度について

日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金制度は平成22年度通常総会で設立が承認されて、専用口座を開設し、校友会会員の方々からの募金及び薬学部校友会桜薬会会報広告掲載料を奨学金の原資としています。平成23年度から給付を開始しています。

薬学部校友会（桜薬会）奨学金制度にご理解をいただきご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和3年度の日本大学薬学部校友会(桜薬会)奨学金の決算は下記のとおりであることを報告いたします。

日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金専用口座　　（令和4年3月31日現在）

科　目	収　入	支　出	残　高	備　考
前年度繰越金	6,716,916			
今年度寄付金	280,000			寄付 9件
奨学金支給		600,000		奨学生3名、200,000×3
振込手数料		165		
合　計	6,706,916	600,165	6,106,751	

募金は下記口座にお願いいたします。
口　座：００１２０－５－３１８７３４
口座名：日本大学薬学部校友会奨学金

地区支部・職域支部だより

東京支部（東桜会）令和３年度幹事会開催報告

日時および場所：令和３年１月14日（金）19時40分から20時40分，ZOOMにて
出席者：小松崎康文，菅野浩，木村英晃，田中三広，横尾朋枝，鈴木慎一郎　以上６名

○校友会の近況報告と現状確認

母校の残念なニュースが続く中，幸いにも職場などで肩身の狭い思いをするようなこともなく過ぎているという報告がありました。校友会の情報を確認し今後の動向を見守りつつ，校友会支部のページを通じ当会の活動状況などの報告をしていくこととしました。

○総会の開催について

当会においては定期総会を年に１回開催することになっています。状況を鑑みて前年度同様，資料を会員に送付し書面をもって開催とする方法としました。年度中に発送準備を進めるとともに，郵送料負担軽減のためメールによる配信も進めることとしました。

○第52回研修会開催について

依然として厳しい感染拡大の状況が続いており令和元年11月以来開催できておりません。横のつながり，校友の親睦の観点から対面による開催が望ましいと考えられますが，世の中ではすでにZOOMなどのオンライン研修が定着しており当会においても試みることとしました。日程の候補，研修シールの発行有無，有料登録によるオンデマンド配信による実施などについても検討します。研修テーマとして「トレーシングレポートの活用」，「薬薬連携」などを候補とし適任な講師を探すこととしました。

○令和４年度の幹事

会　　長：小松崎康文（平８），副会長：菅野浩（院平８），副会長：木村英晃（平６）
会計監事：渡部多真紀（平８）
幹　　事：田中三広（昭54），小溝真理子（平８），深滝利也（平10院平20），鈴木慎一郎（院平21）
会計担当：石川裕輔（平26）
事 務 局：神宮由幸（昭55）
連絡先：日本大学松戸歯学部付属病院　小松崎康文　　komatsuzaki.yasufumi@nihon-u.ac.jp

第47回桜神会

令和４年７月12日（火）、第47回桜神会がオンラインで開催されました。当会は、神奈川県在勤の日本大学薬学部（旧工学部薬学科、旧理工学部薬学科）出身の病院薬剤部長（薬局長、薬剤科長）が中心となり発足いたしました。現在は、県内に勤務、在住の卒業生に幅広く声をかけており、今回も急遽の開催となりましたが多くの先生方にご参加いただいております。

桜神会に先立ち開催された学術講演会では、瀬在　明先生（日本大学医学部　外科学系心臓血管外科学分野　准教授）より「高血圧疾患におけるMRBの重要性～循環器疾患地域連携を含めて～」という演題で、最新の知見をご提供いただきました。高血圧疾患における各種降圧薬の注意点に加え、今回は心不全に対する薬物療法の最新の話題をご提供いただきました。日本の心不全の患者数は約100万人と

推定されています。しかも高齢化に伴って2035年まで更に増加すると予想されており、心不全の増加は世界的な問題であることから「心不全パンデミック」とも呼ばれています。近年、アルドステロンの心血管系への障害作用が明らかとされ、今回のMRBを含めたミネラルコルチコイド受容体拮抗薬の有効性が再認識されています。先生は手術も含めた実臨床での経験に加え、更に先生自らが中心となって臨床研究も積極的に行っている事から、根拠に基づく非常に分かりやすい講義となりました。令和4年度診療報酬改定において、回復期リハビリテーションを要する状態として新たに心大血管疾患が加わりました。今後、急性期病院に限らず回復期の病院や、在宅復帰後にフォローする調剤薬局でも心不全患者に対応する機会が増えると思われます。是非、桜神会のネットワークを活用し地域連携を強化していただきたいと思います。

今後も積極的なご参加をお願いいたしまして、第47回桜神会のご報告とさせていただきます。

（岡添　進　記）

桜神会に関するお問合せは

桜神会　会長　赤瀬　朋秀（日本経済大学　経営学部・大学院　教授　t-akase@tk.jue.ac.jp）まで

24回千葉県支部総会報告

令和４年６月２６日（土）午前１１時30分より、第２４回千葉県支部総会が薬学部校舎８号館８２１教室に於いて開催されました。コロナ感染拡大の中、なかなか総会開催のメドが立ちませんでしたが、今回、薬学部校友会総会開催の日程に併せて開催することが出来ました。開催時間が午前中の限られた時間のため、ご来賓、特別講演、懇親会を取り止めとしましたが、それにも関わらず会員１５名の参加がありました。

総会に入り、議長選出にあたり、議長に支部長が了承され議事に入りました。第１号議案支部会務報告、第２号議案決算報告、第３号議案監査報告についての説明があり審議の結果、原案通り承認されました。第４号議案会則改定について、役員の任期は３年から４年に変更、支部総会開催を３年毎から隔年に変更、総会の議長は支部長が務める事を追加、以上の説明があり審議の結果承認されました。

次回は、２年後の令和６年となりますが、コロナ感染が収束し従来の総会が開催され事を願っています。是非ともご参加下さいますようお願い致します。

有意義な支部会になるよう努力してまいりますので、ご支援の程宜しくお願い申し上げます。

（千葉県支部　支部長　藤原良雄　記）

桜 の 木 の 下 で

第 12 期生同期会報告

コロナ禍のため同級生とはなかなか会えず時間ばかりが過ぎて行くので、思い切って同期会を３年振りで開きました。開催前の新聞によると「新型コロナウイルスの感染が都市部を中心に再び拡大しつつあり、全国の７日間平均の新規感染者は６月 30 日時点で約１万 7500 人と、９日間連続で前日を上回り、東京都でも同日で前日よりも約 3600 人の増加」とのこと。加えて、６月なのに連日 35℃以上の猛暑日が続いたこともあり、感染などを考慮し無理をせず広くはお知らせしませんでした。参加希望だった人には申し訳ないことをしました。おまけに開催当日の未明には九州佐世保に台風４号が上陸した状況もあり、交通網の乱れなども心配でした。

でもそんな中、薄曇りの７月６日（火）午前 11 時半からお茶の水、山の上ホテルの地下の“新北京”でランチタイムを利用して開催。ここは個室もあり過去に何回も使っており、店の場所などの説明が必要なく電話１本で参加者に伝わるので、このところ開催しています。皆さんと再会しても学生時代と変わらぬ様子。懐かしい学生時代のことや友人たちの話題が出たところで、近況を述べてもらいました。絵画を長く続けているので健康である、近く郊外への引っ越しを考えている、ボランティア活動のため福島に時々行っている、独居老人になったので富士山が見える施設に入居し満足しているなどが印象に残りました。出席者の顔ぶれを眺めると薬物学教室が最も多く（小林国喜　津路紀子　冨塚典子　増渕美子　森ひで子）、他は薬化学（野澤克己　原田隆子）、生薬（齋藤芳久）、分析（小清水敏昌）の９名でした。コロナ感染者が急増していますが、この感染が落ち着いた頃での再会を期して午後３時に解散しました。

（小清水敏昌　記）

有吉歌子先生を偲ぶ会報告

令和４年４月 24 日（日）に「有吉歌子先生を偲ぶ会」をオンラインで開催しました。平成 31 年に市ヶ谷の桜門会館にて開催以来、新型コロナウイルス感染拡大防止の為に開催を見合わせていましたが、七回忌にあたる節目の年にちなみ、前回出席者に声をかけ６人で、短時間でしたが「有吉先生を偲ぶ会」をオンラインで行いましたことを報告します。

まず草間先生から「ハーパーの生化学」教科書に書き込まれた思い出や有吉先生がご自宅で開催されたパーティーのお話を伺いました。

24 期と 29 期生の参加者からは、叱ってくれた先生、褒められたときの喜びのエピソードを聞くことができました。小豆島からの参加もあり、懐かしく有吉先生を思い出しながら再会を喜びあい、楽しいひとときを過ごすことができました。オンラインだからこその醍醐味も味わえたので、次回は 2023 年４月 28 日（金）ご命日の 20:00 ～　Zoom にて開催予定です。

次回の Zoom 開催について、今回は残念ながらご都合により出席できなかった小池勝也先生、小川真理子先生にもお声掛けしています。生化学教室に限らず、有吉先生を共に偲びたい方は、下記ホームページ連絡先まで、その旨お知らせくださいませ。折り返し、詳細をご連絡します。

有吉歌子先生を偲ぶ会ホームページ　（「有吉歌子」で検索できます）
https://lilasariyoshi.jimdofree.com/
全２回の偲ぶ会開催の記録、有吉先生関連情報、そしてご生家（愛媛県西条市）のお庭の写真（有吉先生の甥御さん撮影）も掲載しています。

先生がお好きだったライラックは開花前で、
今年は胡蝶蘭を飾りました。

（29 期　中村直美　記）

日本大学・日本大学校友会ニュース

新生日大がスタート

林真理子理事長、酒井建夫学長をトップに据えた新生日大が７月１日付けでスタートした。新体制では、新理事２４名、新監事４名、新評議員４９名で構成され、本学として初めて９名の女性理事を選任した。旧役員は一人も含まない新体制は、大学を新生させるという意気込みを感じさせるものである。副学長には大貫進一郎教授、澤田康広教授、武井正美教授の３人、常務理事には和田秀樹氏が就任した。また、理事長や理事会の諮問に答える本学顧問にオリックスのシニア・チェアマンである宮内義彦氏を委嘱した。

林理事長と酒井学長は、７月１日に所信表明を行った。林理事長は、今後着手する三つの改革事案を発表した。１つ目は、本学の不祥事や資金の流れについて弁護士、公認会計士らをメンバーとする「大規模調査委員会」を設置し第三者委員会では補きれていない問題を精査する。二つ目は、学生、教職員、外部有識者らで構成する委員会を発足し「学生ファースト」の実現。三つ目は「オール日大によるサポート」体制を確立し約１２０万人の卒業生から協力を得る。などが示された。酒井学長からは、旧体制の「経営や管理・運営の優先」を改め、「教学優先方針」で本学の再生、復興に取り組む決意を示し、実現のためのプログラムが示された。新体制での任期は４年間であり、その間に新しくそして未来に向かった新生日大が誕生することに期待するとともに、校友として改革を支え協力することが求められる。

日本大学校友会の再構築

本学校友会の役員総会が７月８日（金）に東京ドームホテルで開催された。総会には、校友会役員ら３６０人（委任状出席１９２名を含む）が出席した。林理事長、酒井学長ら本学役員も参加し、ご挨拶を頂いた。小幡会長代理・代行からは、今後の体制についてゼロベースから検証し、校友会組織を再構築するとの決意が述べられた。総会では、２１年度の各事業の経過、収支決算などの報告が行われた。さらに２２年度の事業計画、収支予算案、会則の変更、規程及びガイドラインなどの改正などについて審議され可決された。

その後、定例であった懇親会は行われず散会した。

会費納入のお願い

校友会活動は会費により運営しています。会費納入にご協力をよろしくお願いいたします。

宛名に会費納入状況が印刷されています。（会員番号に☆印のある方は未納です。）

未納の方は同封振込用紙で会費納入をお願いいたします。

会費は年額 2,000 円です。事務簡素化のため 5 年分 10,000 円または 10 年分 20,000 円を一括納入していただければ幸甚です。

薬学部ニュース

令和４年度薬学共用試験結果

	実施日程	合格者数	合格基準
ＣＢＴ	本試験　令和４年１月８日（土）、９日（日） 再試験　令和４年３月１日（火）	２４３	正答率６０％以上
ＯＳＣＥ	本試験　令和３年１２月５日（日） 追試験　令和４年２月１９日（土）	２５３	細目評価７０％以上 概略評価５以上

ＯＳＣＥの評価者として多くの卒業生の皆様に御協力いただきました。ありがとうございました。

第１０７回薬剤師国家試験結果

第１０７回薬剤師国家試験が令和４年２月１９日（土）、２０日（日）に実施され、３月２４日（木）に合格発表がされました。

合格率は８３．９％で全国平均８５．２％、私大平均８４．７％でした。

薬学実務実習

令和４年度の薬学実務実習は、第Ⅰ期は令和４年２月２１日（月）から令和４年５月８日（日）、第Ⅱ期は令和４年５月２３日（月）から８月７日（日）、第Ⅲ期は令和４年８月２２日（月）から１１月６日（日）、第Ⅳ期は令和４年１１月２１日（月）から令和５年２月１２日（日）の日程で行われます。

５年次生が薬局、病院の順に続けて１期ずつ実習を行います。卒業生の皆様にお世話になる学生も大勢いるかと思いますが、御指導の程、何卒よろしくお願いいたします。

学位記伝達式

令和３年度大学院薬学研究科及び薬学部の学位記伝達式が３月２５日（金）に２号館２階多目的ホールにおいて行われました。１９０名（博士課程４名、学部生１８６名）が修了・卒業し、巣立っていきました。

開講式

令和４年度大学院薬学研究科及び薬学部の開講式が４月４日（月）に薬学部２号館２階多目的ホールにおいて、新入生２９９名（博士課程６名、学部生２９３名）を迎えて行われました。

薬草教室

第３３回薬草教室が令和４年５月７日(土)に開催されました。講師に元渋谷区ふれあい植物センター園長の宮内元子氏をお迎えし、「毒にも薬にもなる植物園の話」と題し、御講演をいただきました。また、講演終了後、薬用植物園を見学しました。

スポーツ大会

令和４年度薬学部スポーツ大会が５月２８日（土）に理工学部船橋校舎を主な会場にして開催されました。天候に恵まれ澄み渡る青空の下、学生２３１名、教職員７４名、合計３０５名が参加し、屋内・外で熱戦が繰り広げられました。

公開講座

第２５回公開講座が令和４年６月４日（土）に開催されました。講師に本学部教授の片山和浩氏をお迎えし、「免疫ってすごいんです！～病気から身を守る～」と題し、御講演いただきました。なお、施設公開として薬用植物園を公開しました。また、公開講座の様子は６月１５日（水）から６月３０日（木）まで、オンデマンドで配信されました。

オープンキャンパス

令和４年７月３１日（日）及び８月２１日（日）に開催されました。今年度も新型コロナウイルス感染症対策を施し、事前予約制による開催となりました。

来場者は７月３１日が４０２組（６９１名）、８月２１日が４０６組（６９１名）の方から御参加いただけました。

また、御来場できなかった方のために、特設Ｗｅｂオープンキャンパスを開催し、来場型オープンキャンパスの際の学部紹介と入学者選抜の説明、ミニ講義等の動画を公開いたしました。

物故者名簿：心よりご冥福をお祈り申し上げます。（2022.7.31 現在）

正会員

1期	岡　村　　信	(2022.03.22)	
1期	安　田（田淵）健二郎	(2020.11.25)	
2期	齋　藤（岩崎）允　子	(2022.01.04)	
3期	德　竹　　伯　夫	(2022.06.06)	
3期	德　竹（井手）喜　子	(2021.09.　)	
4期	市　原　　正	(2021.11.18)	
5期	樋　口　　哲　夫	(2022.01.27)	
9期	新　井（高山）真希子	(2021.03.23)	
9期	中　根（赤木）衣　子	(2021.07.10)	
9期	米　本（遠藤）富美代	(2022.06.21)	
11期	三　浦　　真　人	(2022.04.　)	
12期	下　田　　祥　三	(2021.10.　)	
13期	小　川　　義　和		
15期	岡　部（白井）憲　子	(2021.08.13)	
18期	小　島　　邦　重	(2021.06.17)	
20期	渡　辺（車）吉　誠	(2007.10.14)	
22期	金　　正　一	(2021.02.　)	
23期	村　田　　健　雄	(2021.12.　)	
27期	久　保　　光　正	(2021.08.22)	

校友会事務局に、死亡日時、葬儀日時、会場、喪主をご連絡いただければ、会より弔電を打たせていただきます。

会　務　報　告

令和４年度校友会幹事会および通常総会報告

令和４年度幹事会は６月11日（土）、通常総会は、6月26日（日）にいずれも薬学部822教室で開催された。

幹事会は、午後２時から幹事参加者32名で開催された。

議題

１．日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金給付内規改正（案）について

内倉会長から改正についての趣旨と要点が説明され、審議の結果、原案通り承認された。

２．令和４年度通常総会資料について

薬学部校友会通常総会資料についての提案があり、審議の結果、原案のとおりに総会に上程することとなった。

３．その他

１）校友会名簿について、会員の詳細な住所を記載しない形式（住んでいる地域が分かる程度の情報）の名簿作成を要望する意見があった。

２）桜薬会会報について、会員の動向をより広く紹介するなど、内容の更なる充実と電子媒体での提供を検討すべきとの意見があった。

通常総会は、午後１時30分から会員35名が参加し、名誉会長鳥山正晴薬学部長をお迎えして開催された。司会は齋藤弘明氏（46期）が務めた。内倉会長の挨拶に引き続き、学部代表として鳥山薬学部長から、薬学部を取り巻く状況の説明があり、引き続き校友の協力をお願いしたい旨のご挨拶があった。

その後、校友会会則第14条により内倉会長を議長に選出した。議事に先立ち議長から議事録署名人岸川幸生氏（35期）、野伏康仁氏（49期）が指名された（会則14条）。

第１号議案（令和３年度庶務報告、事業報告、決算報告ならびに監査報告）について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

第２号議案（令和４年度事業計画案ならびに予算案）について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

第３号議案（役員承認）について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

第４号議案（その他）

１）薬学生涯教育講座の周知方法について、薬学部校友会のホームページにも掲載すべきとの意見が提出された。

事業委員長より今後検討する旨回答があった。

２）薬学部校友会ホームページを利用した校友の連絡方法について質問があった。

IT委員長より校友会フェイスブックの更新情報を利用する方法が紹介され、ホームページの連絡方法に関わる改訂については今後検討する旨回答があった。

今年度の幹事会、通常総会も昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大のため終始マスク着用で、懇親会の開催も見送られたが、束の間の校友との再会を喜び合った。

令和３年度　決算報告

正味財産計算書

令和３年４月１日～令和４年３月31日（単位：円）

科　　目	令和３年度実績	令和３年度予算
Ⅰ一般正味財産増減の部		
１経常増減の部		
（１）経常収益		
①受取会費		
入会金収入	2,572,000	2,618,000
前納当年該当分	4,809,000	6,805,000
学生・正会員当年分	3,648,000	4,000,000
②雑収益		
受取利息	215	300
有価証券利息		
医療系収入		
その他収入	96,000	600,000
経常収益計	11,125,215	14,023,300
（２）経常費用		
①事業費		
印刷費	1,743,500	2,000,000
原稿料	37,400	60,000
発送費	1,944,531	2,200,000
生涯教育講座	300,000	300,000
支部等	240,000	500,000
学生会員	2,913,775	2,700,000
医療系・工科系	0	200,000
HP 管理費	330,000	400,000
事業費計	7,509,206	8,360,000
②管理費		
総会費	0	700,000
委員会費	15,820	120,000
管理費	321,406	900,000
人件費	772,912	2,000,000
旅費交通費	205,748	500,000
通信費	124,558	250,000
本部等分担金	570,000	630,000
慶弔費	96,571	500,000
予備費	0	63,300
管理費計	2,107,015	5,663,300
経常費用計	9,616,221	14,023,300
当期経常増減額	1,508,994	
２経常外増減の部		
（１）経常外収益		
経常外収益計	0	
（２）経常外費用		
経常外費用計	0	
当期経常外増減額	0	
当期一般正味財産増減額	1,508,994	
一般正味財産期首残高	20,115,686	
一般正味財産期末残高	21,624,680	
Ⅱ指定正味財産増減の部		
当期指定正味財産増減額	0	
指定正味財産期首残高	15,688,140	
指定正味財産期末残高	15,688,140	
Ⅲ正味財産期末残高	37,312,820	

貸借対照表

令和４年３月31日現在（単位：円）

	令和３年度
Ⅰ資産の部	
１流動資産	
現　　金	41,496
普通預金	21,250,992
郵便貯金	20,645,113
野村証券預け金	29,854,219
流動資産合計	71,791,820
資産合計	71,791,820
Ⅱ負債の部	
１流動負債	
前受前納会費	34,479,000
流動負債合計	34,479,000
負債合計	34,479,000
Ⅲ正味財産の部	
１指定正味財産	
指定正味財産合計	15,688,140
２一般正味財産	21,624,680
正味財産合計	37,312,820
負債及び正味財産合計	71,791,820

令和４年度　予算

令和４年４月１日～令和５年３月31日（単位：円）

○収入の部

科　　目	予　　算
入会金	2,804,000
年会費	
前納会費積立	6,750,000
当年度納入	4,000,000
利子	300
雑収入	300,000
合計	13,854,300

○支出の部

科　　目	予　算
１事業費　合計	8,360,000
①会誌発行費	
印刷費	2,000,000
原稿料	60,000
発送費	2,500,000
②活動補助費	
生涯教育講座	300,000
支部・同期会	500,000
学生会員	2,500,000
医療系・工科系	200,000
③HP 管理費	300,000
２管理費　合計	5,494,300
①会議費	
総会費	700,000
委員会費	120,000
②事務局費	
管理費	1,000,000
人件費	2,000,000
旅費交通費	400,000
通信費	200,000
③その他	
本部等分担金	600,000
慶弔費	300,000
④予備費	174,300
合計	13,854,300

○本部還付金

科　　目	予　　算
１本部還付（正会員）	（150,000）
年会費充当分	100,000
雑収入充当（寄付金扱）	50,000
２本部還付（準会員）	（9,360,000）
入会金充当	2,804,000
年会費充当分	3,120,000
前納会費充当	3,436,000
合　　計	9,510,000

日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金給付内規改正

（資格）

第４条

（現行）奨学生は、人物が優れた在学中の学部生・大学院生であり、学業成績優秀で学費の支弁が困難である者とする。

（変更なし）

（募集）

第５条

（現行）奨学生の募集は、11 月に行う。

（改正）奨学生の募集は、11 月に行う。ただし、学部生、大学院生はそれぞれ別枠で募集する。

令和４年６月１１日一部改正

令和４年度　校友会入会記念特別講演会報告

新入会員（１年生）に向けて、第１７回入会記念特別講演会「薬学の世界」が下記の通り開催された。

日　時：令和４年５月９日（木）　１５：００～１６：２０
場　所：薬学部８号館　８３１教室

演題・演者

１「あなたの個性が新しい○○を創る」
長野県　環境部　水大気環境課　水質保全係　　小林　利典（５２期）

２「グローバル製薬企業で＋αを身につけなさい」
ソーシャルユニバーシテイ薬剤師生涯教育学習センター　副センター長
今給黎　明彦（３１期）

役員について

幹事（任期：令和４年度まで）　◎印　常任幹事

卒業期

第６５期　　◎　菅野　裕己、有壁　一成

学内幹事

新任　菅野　敦史（４５期）、竹安　智弘（６０期）、渡部　浩平（６１期）
長友　太希（６３期）、重松　花梨（６５期）

役員退任　下田　康代

校友会ホームページのリニューアルについて

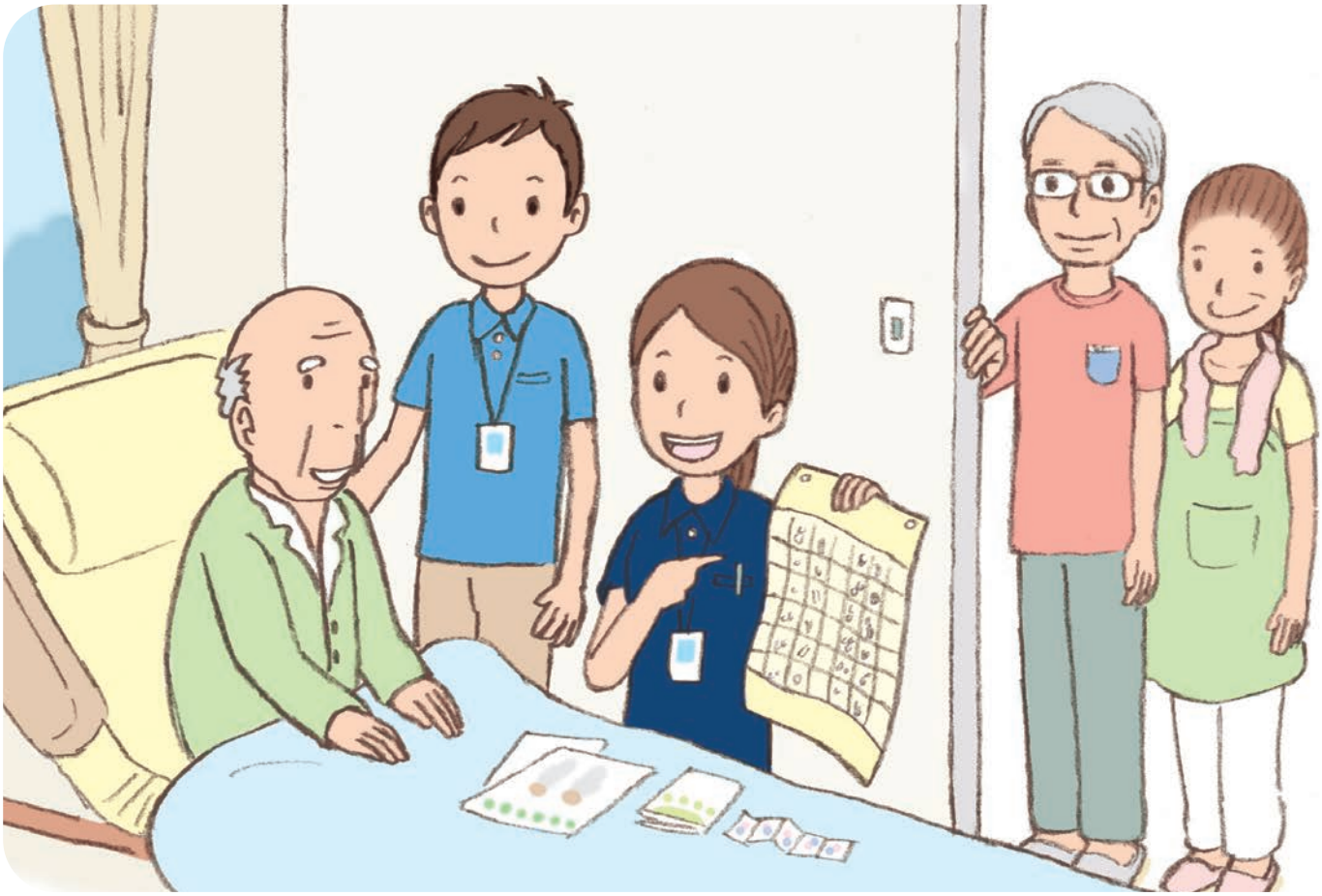
IT 委員会委員長　　矢作 忠弘

2022 年 5 月に薬学部校友会ホームページをリニューアルいたしました。スマートフォンによる閲覧にも対応しています。「同窓会の案内をしたい、緊急連絡先として使いたい」「支部会の告知をしたい」「校友限定の求人情報を掲載したい」など、会員の皆様のご要望に迅速に対応できるホームページとなっておりますので、是非ご活用ください。また、本学就職指導課より提供される求人情報を毎週金曜日に更新し掲載しておりますので、就職活動にもお役立てください。PDF ファイルには以下のパスワードが設定してありますので、閲覧する際には入力してください（SNS 等での拡散はご遠慮ください）。

会員の皆様からのお声を反映して、より良いホームページにしていきたいと考えておりますので、ご意見・ご要望を遠慮なく校友会事務局（pha.alumni@nihon-u.ac.jp）までご連絡下さい。

校友会ホームページ：https://www.ouyakukai.jp/
求人情報パスワード：お手元の会報で確認してください

こんなことに使えます！
＊同窓会の案内
＊支部会の告知
＊求人情報の掲載
など



きらりと光る地域の薬局へ

「家族の希望をかなえたい」「寄り添って生活したい」
患者さまの各々のニーズにお応えできるよう在宅訪問に力を入れています。
「薬剤師としての新しいステージへ」コスモは挑戦しています。
コスモ訪問看護リハビリステーションと連携し、多職種連携によるチームの力で
患者さまに寄り添い安心してお薬を服薬できるようサポートしています。

コスモ薬局

埼玉県（蓮田・大宮・越谷・黒浜・久喜・越谷東・岩槻・七左・レイクタウンDMビル・土呂
在宅療養支援センター・上落合・エムエム薬局・そね薬局・きらり薬局 岩槻）

cosmo-plus.jp

コスモ 訪問看護リハビリステーション

埼玉県内4事業所（さいたま北・蓮田・レイクタウン・岩槻）

cosmonurse.jp

コスモプラス株式会社　〒331-0804 さいたま市北区土呂町2-12-20 コスモスクエア5階　TEL 048-653-0306

会 費 納 入 報 告

財務委員会

会費を納入いただきました方の名簿です。ご協力ありがとうございました。誤りがありましたらお知らせください。

本部準会員（学生会員）会費納入者は人数のみのご報告とさせていただきます。

（令和４年２月１日～７月３１日）

会費納入者

2,000 円納入者

56 鈴木隆子，山口久美 59 木村清 60 尼崎玄之助 61 勝本行子，辻厚子，景山洋子，小林和子 62 上田民恵 63 小林静子，寺澤正孝，桒島國利 64 金子幹宏 65 秋元敦信 66 小林正子 68 藍原恭子 72 山下和代 74 松永直樹，加賀谷元，川井龍美 76 松川律子，片桐秀明 77 藤田智子，原和彦，安部貞詔，長瀬健市 79 大塚正征 81 加藤善久，北村奏 82 渡辺正実，中村宏典 84 阿部秀夫 85 栗城華枝，杉中淳 91 葛籠貫夕子 92 鈴木豊史 94 岩澤恭介 95 今田吉宣 99 廣瀬諭 05 藤代大輔

以上 40 名

4,000 円納入者

56 分林孝夫 64 廣瀬慶子 66 松田光弘 67 増渕美子 78 上田忠司 98 野村浩子

以上 6 名

6,000 円納入者

58 山本祐子 61 鈴木保行 65 榎本英機 71 日南田義隆 77 菅野君子，菅野圭介

以上 6 名

8,000 円納入者

86 谷地由香

以上 1 名

10,000 円納入者

56 秋山時夫 57 川島倭子 58 藤野睦夫 60 鈴木京子，島田順子 61 小田八保子 62 会田洋子 63 高松田鶴子，青木正忠 64 長沼邑子，関良子 66 中島卯一，関根和子，武田幸代 67 石倉芳夫，川原美智子 69 犬飼秀雄，鍵山佳子 70 牧村紀子 72 増田きよ美，名塚登美子，二俣哲夫，巻内正 73 宮内芳美，三山義博 74 加古順子，越野裕 75 梶田善昭，佐藤澄子，鎌田みづ江，山岸美恵子 76 木下三千子，信田明子 77 石郷岡幹雄，庄司尚人，山下仁志 78 三宅宗晴，内山隆，木村郁郎，松沢清枝 80 藤井令子，飯塚直人 81 蓮池由起子 82 久米実，只野公一 83 高塩健一 84 小野田学時 85 阿部敬子，加藤隆，松崎桂子 86 西原ユミ 87 中村恵子，石井武男，輿水温子，月岡隆 88 三輪洋美，瀬ノ尾啓泰 91 市川邦治，内藤博敬，永野義武 92 細川正恵 93 久保美ユリ 95 荒川千佳 01 平井敦子，長坂美穂，和田諭，髙橋千絵 04 細川智弘 07 岡田博之

以上 69 名

12,000 円納入者

96 荒川基記

以上 1 名

20,000 円納入者

71 田畑秀理，篠崎俊行 80 新井道也 81 木下真由美 82 吉川日出雄 83 佐藤雅典，平河優子 85 佐々木裕子 97 石渡由佳 98 川名真理子 99 渡辺達也 02 古川めぐみ 05 佐谷怜子，嶋田逸大 07 後藤真紀，後藤教嘉

以上 16 名

30,000 円納入者

68 山崎宏子

以上 1 名

40,000 円納入者

03 土居孝之

以上 1 名

令和４年度本部正会員会費納入者（薬学部校友会へ会費還付があった者）

57 一ノ瀬衛，山長みどり 61 前田敏晴 63 長崎雅彦 64 小松康宏，渡邊和子 65 小川尚武 66 上村浩子 68 高橋繁治 69 内倉和雄 70 宇野澤まり子，草間貞 74 平井幹廣 76 伊藤正徳，本橋重康 79 地曳いせ子 80 梅沢芳史，関和優子，中村正敏，目鳥幸一 81 梶原加恵子 82 木村高久 84 日高慎二 85 鳥山正晴，林宏行 86 岩鶴節子 88 内山武人，澤田康裕 89 田口博之 90 浅見覚，岸川幸生，新海一郎，西村伸大 94 安部恵，土屋晃一 96 大場延浩，黒田好美，小松崎康文 00 木村恵子 01 荒井希文，齋藤弘明 05 橋本詠次 06 松本大輔 08 大塚進 12 北野徹 14 今井徹，下田康代

特別会員：飯田創一，稲井孝行，宇野朋子，小野真一，神田信，木澤靖夫，手塚雅勝，富澤経裕，松尾光帆，松本宣明，村田佳子，薬眞寺千恵子

以上 59 名

令和４年度本部準会員会費納入者（薬学部校友会へ会費還付があった者）

学部	1 年	308 名	大学院	1 年	6 名
学部	2 年	270 名	大学院	2 年	3 名
学部	3 年	227 名	大学院	3 年	5 名
学部	4 年	226 名	大学院	4 年	7 名
学部	5 年	238 名			
学部	6 年	252 名			

以上 1,542 名

日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金寄付者

01 齋藤弘明

広告掲載企業　コスモプラス㈱

合計 70,000 円

発行日　令和４年 10 月 15 日
編集人　日本大学薬学部校友会事業委員会
発行人　日本大学薬学部校友会　内倉和雄
印刷所　協友印刷株式会社
TEL　03-5948-7150

発行所　千葉県船橋市習志野台　7-7-1
日本大学薬学部内（〒 274-8555）
TEL/FAX　047-465-1478（直通）
E-mail：pha.alumni@nihon-u.ac.jp
振替口座番号　00140-0-53798
振替口座名　日本大学薬学部校友会